

欧州小売主導・食品認証規格のダイナミクス

—GFSI（国際食品安全会議）認定規格と ISO（国際標準化機構）食品安全規格の比較—

東京海洋大学大学院 岡田 綾子

(ISO22000 及び IFS 主任審査員, BRC 審査員補, FSSC22000 主任審査員申請中)

1. はじめに

2010年、ザ・コカコーラ・カンパニーは、全世界のサプライヤに対して、2012年末までにGFSI認定規格認証取得を要請した。それを受けて、日本の関連サプライヤ170社は、取引継続のため、GFSI認定規格認証取得を余儀なくされている。世界の食品業界で認証数が急激に増えているGFSI等“民間規格”（国際機関ではない“民間”が策定する規格）台頭問題が、日本においても、ようやく注目を集めることとなった。

GFSI (Global Food Safety Initiative) とは、2000年、世界の大手小売・製造業を中心とした団体である The Consumer Goods Forum (当時 CIES) によって設立された機関である。欧州に本拠地を置く GFSI は、90年代の BSE やダイオキシン汚染によって大きく揺るがされた食品安全問題に対処することを第一義的な目的として設立された。GFSI は、既存の食品規格の適格性を審議・認定し、GFSI 参画企業へ納入するサプライヤは、その認定規格のうち、いずれか一つの規格を認証取得することによって納入要件を満たすというスキームが構築された。

少子高齢化等国内需要拡大が限界となるなか、日本の食品企業の世界市場参入が期待されているものの、なかなか進まない状況にあり、そのなかで日本は、GFSI 認定規格に代表される“民間規格”のダイナミズムに包含された領域から、長い間、外れた場所に位置していた。その状況が変革していく兆しが見えるなか、海外進出を考える日本の食品製造企業は、どのような規格に準拠すべきなのか考察を試みる。

2. 分析方法

FAO (国連食糧農業機関) と WHO (世界保健機構) によって設置されたコーデックス委員会発行の“民間規格”に関する意見書 [1] 他文献をもとに、標準化規格策定機関として長年の実績がある非国際機関・ISO と GFSI を取り巻く状況を明らかにしたうえで、以下の GFSI 規格 (3 規格) 及び ISO 規格を比較し、世界の食品安全規格の動向の析出を試みる。

- 下記 IFS と同様、主要 GFSI 規格である英国小売協会発行「Global Standard for Food Safety Issue5 (以下、BRC)」
- 独・仏・伊小売協会発行「International Food Standard Version 5 (以下、IFS)」
- オランダ民間機関が、既存 2 規格(下記 ISO22000 及び PRP (前提条件プログラム) の規格である PAS220:2008)を採用し、1 規格としてまとめた「Food Safety System Certification 22000 (以下、FSSC22000)」
- 「ISO22000:2005 食品安全マネジメントシステム (以下、ISO22000)」

上記結果をもとに、日本の食品製造企業、特に海外食品市場への進出を考える企業が準拠すべき規格について考察を試みる。

3. 食品規格策定機関を取り巻く状況

ハリエット・フリードマンは、「食品基準をめぐる国際交渉が息詰まる中で、その空白を衝いて出現しつつあるかに見えるのが、サプライチェーンの品質検査によって特徴づけられる新たな

表 1 食品規格要求事項の比較

	文書記録	経営の程	トレーサビリティ	顧客満足度	工程管理	購買	製造工程	製品特性	内部監査	教育訓練	前提条件プログラム	HACCP	トピセラティ	不適高品質	測定機器種	計量種	製法検査	分析検査種	内部検査	データ分析	PRP/PCP/CCP/CP	表示	異物混入防止	アレルギー	GMO	セキロイ	回収ラベル	
ISO22000	◎	◎	◎	○	○			◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎		○			◎	◎	○	○				◎	
BRC	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
IFS	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	*1	◎	
FSSC22000	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		◎	◎			◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	

◎ 詳細ごわたり記載。 ○ 記載あり。 *1 オプションの食品テロ用チェックリストあり。

フード・レジーム」の時代が来たと述べている [2]。ここでの「品質検査」とは、規格・基準にもとづく監査を意味する。米国においても、2011年1月4日、輸入食品への第三者認証の可能性をも言及した食品安全近代化法に、大統領の署名が入り、法案として成立した。世界的に、食品監査の重要性が着実に拡大・増加してきている。

1947年に設立されたISOは、非政府の任意規格・基準策定機関であるものの、国際機関であるコーデックス委員会との良好な関係を保ち、WTO（世界貿易機関）の厳格な規格策定基準にもとづいて、ISO22000:2005を発行するなど、準国際組織的な役割を果たしてきた。それにより、規格・基準策定機関としてのISOの地位が確立しているかのようにみえた。この世界の食品規格認証制度の構成組織関係に大きな変容をもたらしたのが、GFSI認定規格である。

4. GFSI規格とISO規格要求事項比較

対象4規格を比較（表1）した結果、3つの点が明らかになった。第一に、ISO22000は、フードチェーンにおける「相互コミュニケーション」、独自に構築した「HACCP」、また、ISOが得意とする「システムマネジメント」による継続的改善要求事項が充実しており、ISO9001等の他マネジメントシステム規格に比べても、検証・評価・分析・更新要求事項が複雑に絡み合い、企業がこの要求事項を忠実に履行するためには、ある一定レベル以上の分析能力が必要となる。第二に、FSSC22000はGFSI認定規格ではあるが、BRCやIFSが小売業のPB商品管理を目的として策定された経緯と異なり、ダノン、ネスレといった世

界の大手製造業によって策定されたPRPをはじめ、SCM管理目的ではなく、食品製造におけるベストプラクティスが策定されたといった観がある。第三に、BRCやIFSは、食品安全のみならず、品質や、法令遵守といった食品企業として最低限守るべき「Due Diligence」としての要求事項が網羅されている。それらの審査結果がランクづけ、あるいは、点数化される等、ISO規格に比べてチェックリスト審査に近い手法をとっている。

5. 結論

どの規格を認証取得するかは、その食品企業の選択である。海外進出をめざす日本の食品企業が選択すべき規格としては、特に、海外小売への直接納入する場合、BRCやIFS規格が妥当である。その理由としては、小売がグローバルなサプライチェーンを管理する上で、消費者ニーズの迅速な反映が容易であり、審査自体の標準化、ひいては、サプライヤの標準化が容易なBRCやIFSを重宝することが予測されるためである。海外進出をめざす食品企業として、主要なGFSI規格であるBRCやIFSの規格要求事項を知ることが、輸出の際の必須条件となるであろう。

参考文献

- [1] CODEX ALIMENTARIUS COMMISSION “CONSIDERATION ON THE IMPACT OF PRIVATE STANDARDS” 2010
- [2] ハリエット・フリードマン（著）、渡辺 雅男・記田 路子（訳）「フード・レジーム — 食料の政治経済学」こぶし書房、2006